



図書館員がおすすめする

今月の推し本



一般書

『銀座「四宝堂」文房具店』

上田 健次／著（小学館）



銀座の路地に佇む老舗の文房具店・^{しほうどう}四宝堂は、
知る人ぞ知る名店。どこかミステリアスな店主・^{げん}宝田硯のもとには
今日も様々な悩みを抱えたお客が現れる。
両親の代わりに育ててくれた祖母へ感謝の気持ちを伝えたい青年、
退職届を今日中に書かないといけない女性など、困りごとを抱えた
人々の心が思い出の文房具と店主の言葉で解きほぐされ・・・。
普段何気なく使っている文房具。
それら一つひとつには思い入れがあり、思い出される物語がある。
じんわり心が温くなり、気がついたら涙があふれていた、
そんな作品です。現在、四巻まで刊行されています。

児童書

『恐竜博物館のひみつ』

別司 芳子／作 ながおか えつこ／絵（文研出版）



ある日の夜、恐竜博物館の研究員・天野の足元に
ぶつかったのは、展示されているカメの化石。
しかも動いていて、話ができる!?
そのカメの年齢は、なんと一億一千九百五十八万歳！
その日から、夜になると博物館の化石が動き出す事態に。
そんな中、天野は三日に一度はやってくる小学生の博文と出会い・・・。
次第に交流を深める2人だが、博文にはなにか悩みがありそうな・・・。
夜の博物館で恐竜たちと会話をしながら、天野が教えてもらった
こととは？